

けんぱくものしりシート

だま ビー玉

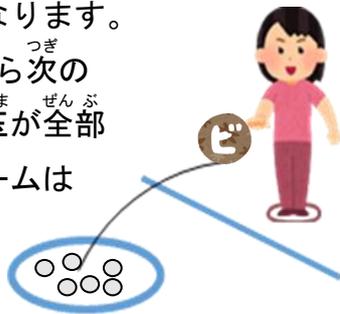


ビー玉は、ガラス製の球形をした子供の遊び道具のひとつです。
 ビー玉遊びは、ビー玉を落としたり、投げたり、飛ばしたりして、
 相手の玉をはじき出す、とても単純な遊びです。種類もルールも
 国や地域によって様々です。遊び方の一例をみましょう。



ビー玉あて

地面にいろいろな図をかいて、その中に
 みんなで出し合ったビー玉を置きます。
 ジャンケンで順番を決め、一定の距離か
 らねらいをつけてビー玉を投げこみます。
 見事に命中し、図の外に飛び出したビー
 玉は自分のものになります。
 命中しなかったら次の
 人に交代し、ビー玉が全部
 図の外に出たらゲームは
 終わりです。



目玉落とし



自分の目の高さからビー玉を落と
 して、地面に置いてあるビー玉に命
 中させます。
 見事命中させることができたビ
 ー玉は自分のものになります。

ゴールデンアーチ

空き箱に大小さまざまな穴をあけます。穴の上に点数を書きこみます。
 ひとりの持ち玉は3個で、ラインから穴をめがけてシュートし、うまく
 穴を通過したら、点数を合計して多い人が勝ちとなります。



ケンくん  いろいろな遊び方があるんだね。

もち方や投げる強さ、当てる位置を必死に工夫する
ビー玉遊びは、冬季オリンピックで有名になった
「カーリング」に似ていますね。

 ハクちゃん



そだねー！

現代の私たちになじみのあるビー玉遊びは、幕末のころから始まります。
ガラス製品が高価だったそのころの日本人の子どもたちは、クルミやぎんなんの実で遊んでいたそうです。明治30年ころになると、大阪でガラスのビー玉が作られるようになり、その後全国的に普及していきました。昭和20～30年代にカラフルなビー玉が作られるようになると、子供たちの間でビー玉の交換や、色々な遊びが考えられ、昭和30年代まで人気を集めました。

 解説員



このころビー玉は、だかし屋で
ばら売りされていたそうですよ。
右は、昭和33年頃に秋田県湯沢市で撮影
されたビー玉で遊ぶ子供たちの様子です。



※出典

関西ではビー玉のことを
「ラムネ」と呼ぶみたいですよ。



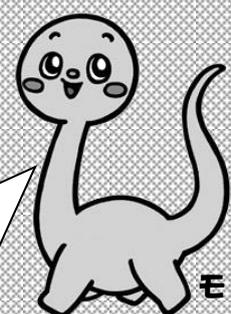
「ビー玉」という呼び方については、ラムネびんの栓に使用できるガラス球を「A玉」、規格外品を「B玉」と呼び、不良品であるB玉を子供用のおもちゃとして転用したという説や、ガラスを意味する「ビードロ」がなまったという説もあります。



この他にも、たくさんの遊び方があります。
友達とチャレンジしてみてください！

参考 『ビー玉』株式会社 文溪堂 2003年 / 『遊び図鑑 いつでも どこでも だれとでも』 福音館書店 1987年
※『写真ものがたり 昭和の暮らし 6 子どもたち』 社団法人 農村漁村文化協会 2006年 他

来月(7月)の
けんぱくものしりシートは
地質-19だよ！
おたのしみに！



モッチャン



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷 34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

※「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
※「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。